

## 2024 American Association of Geographers Annual Meeting に参加しました (2024/4/16 - 20)

テーマ：地理学、災害科学  
会場：ハワイコンベンションセンター  
URL：<https://www.aag.org/events/aag2024/>

2024年4月16日(火)～20日(土)にハワイコンベンションセンターで2024 American Association of Geographers (アメリカ地理学会) Annual Meeting が開催されました。このイベントは、地理学における世界最大の会議の一つで、都市地理学、文化地理学、健康地理学、災害地理学、自然地理学、地理情報科学など、幅広い地理学の分野から3,000件を超えるテーマについて発表がありました。特にGeoAI(地理学におけるAI技術の開発・応用分野)に関するセッションは開催期間を通して開かれ、深層学習や生成AI技術を用いた都市環境や人流解析について活発な議論が行われました。

災害に関するセッションも数多く開催され、GIScience and Hazards セッションでは災害レジリエンス共創センターから永田彰平助教が「Comparison of tsunami exposed populations based on static and dynamic population data (静的/動的人口データを用いた津波曝露人口推定の比較)」というテーマで発表を行いました(共同発表者：マス・エリック准教授、武田百合子学術研究員、片谷信治特任准教授、桑原直道特任准教授、越村俊一教授、中谷友樹教授(環境科学研究科))。この発表では、国勢調査などの静的なデータと携帯電話保有者の位置情報などの動的なデータに基づく津波曝露人口の推定結果を比較し、災害マネジメントにおける従来の曝露人口推定が基本的に過小評価となり得ることを示しました。会場では、動的な災害曝露人口推定を日本以外の国で行うための方法や実際の災害時に曝露リスクを訪問者に共有する方法に関する議論が盛り上がりました。

今回の会議は、他の学問分野と同様に、地理学においてもビッグデータ処理や深層学習・AI技術といった近年の情報処理技術の応用によって、研究をさらに発展させられる可能性が強く示された会となりました。災害レジリエンス共創センターにおいても、新しい技術を積極的に取り入れ、また、幅広い学問分野との連携を通して災害マネジメント研究に取り組んでまいります。



会場のハワイコンベンションセンター



永田助教の発表

文責：永田彰平(災害レジリエンス共創センター)